

## 研究会の紹介

# 地域金融機関再編と信用金庫の役割

## 金融労連近畿地協 阿部正巳事務局長が解説

### 舞鶴市民自治研究所（「まい研」）第66回定例会で

舞鶴市の「まい研」（まいづる市民自治研究所）は、4月6日火曜日に第66回定例会を舞鶴市勤労者福祉センターで開催。「銀行再編と地域経済」をテーマに、金融労連近畿地協の阿部正巳事務局長（元京都北都信用金庫従業員組合執行委員長）から報告を受けました。定例会には、「まい研」会員、阿部事務局長のほか京都北都信金従組の役員も参加しました。

阿部事務局長は静岡大学の鳥畑与一教授作成の「加速する地方銀行再編成策の問題点について」（金融・労働研究ネットワーク研究会報告資料）を活用しながら報告。菅首相の「地方銀行の数が多すぎる」という発言の背景、「地銀再編は今必要な政策なのか」、「コロナ禍を乗り越えるために必要なことは」などについて解説。

菅政権の中小企業「統合・再編」政策は、自営業者や中小企業だけでなく地域の経済・社会を一層の衰退に追い込む「中小企業の淘汰」など、絶対に許されるものではない事を明らかにしました。

関連記事リンク [「加速する地方銀行の再編政策」をテーマに ZOOM 研究会](#)

### 地域経済で信用金庫の果たすべき役割

地域経済における信用金庫は、協同組織金融機関として「相互扶助」を理念とする非営利の協同組織で、会員の出資で成り立っています。「面倒見の良さ」が売りで、中小零細企業にとことん付き合うのが信用金庫です。営利の株式会社組織である銀行とはその点で大きく異なります。

阿部事務局長は「コロナ禍でも、私たち地域金融機関は地域の中小零細企業等を支えるために営業を継続しています。今後の金融機関に求められているものは企業への積極的な経営改善支援、資金需要の掘り起こし等、手間暇のかかる業務です。先に見えないコロナ禍の中で、執務室ではスプリットや段ボールの仕切りに囲まれ、交代勤務、テレワーク、テレビ会議等々、ソーシャルディスタンスの下、職場でのコミュニケーションも取り難しくなっています。」と信金に求められる事や職場の現状などを語りました。（まいづる市民自治研究所 NEWS LRTTER 「まい研」No164から

[「まい研」No164を開く](#)）

関連記事リンク [菅政権の地銀再編を考える](#)